



多様な主体との協働による 地域資源を活用した 持続可能な**稼ぐ**地域づくり



岩手県一関市



■協働のまちづくり

- ・当市には古くから、地域で互いに支え合い協力する「結いの精神」が根付いている。
- ・多様な主体が、行政と地域の特性や課題などを共有した上で、役割を分担しながら地域課題の解決や地域の実情に沿って地域づくりに取り組む「協働のまちづくり」を推進している。
- ・都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト、みんなのマスクプロジェクトなどの市民力プロジェクトに取り組んできた。



【プロジェクトに賛同した市民から寄せられた手作りマスクの封入作業】

■都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト



- ・2014年、使用済小型家電から回収した金属を東京オリンピック・パラリンピックのメダルに活用することについて、同組織委員会などに提案した。
- ・2017年4月、同組織委員会が「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を実施し、本市でも市民力プロジェクトとして、市民の協力を得ながら使用済小型家電の回収を推進した。
- ・2020年1月、この取組をレガシープロジェクトとして、次のパリ大会につなげることを本市が同組織委員会に提案した。

【「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を次のパリ大会につなげる提案書】

■国際リニアコライダー(ILC)を基軸としたまちづくり



- ・宇宙誕生の謎などを研究するため世界にただ一つ建設される国際研究施設「国際リニアコライダー(ILC)」の建設候補地として本市を含む北上高地が選定されている。

【ILCイメージ ©Rey.Hori】

- ・ILC実現により、新たなイノベーションの創出や国際研究都市の形成が期待されることから、本市ではILC誘致を契機とし、未来を見据えた人材育成に取り組んでいる。

■資源・エネルギー循環型まちづくり



- ・市内で発生する廃棄物やバイオマスなどをエネルギー資源と捉え、その活用により地域内で資源やエネルギーが循環する「資源・エネルギー循環型のまちづくり」に取り組んでいる。

【市役所内に設置しているオフィス製紙機を見学する中学生】

- ・2016年に、国からバイオマス産業都市構想の認定を受け、特に本市の豊富な森林資源を活用した木質バイオマスの有効活用に取り組んでいる。



提案書に市民の意見を反映

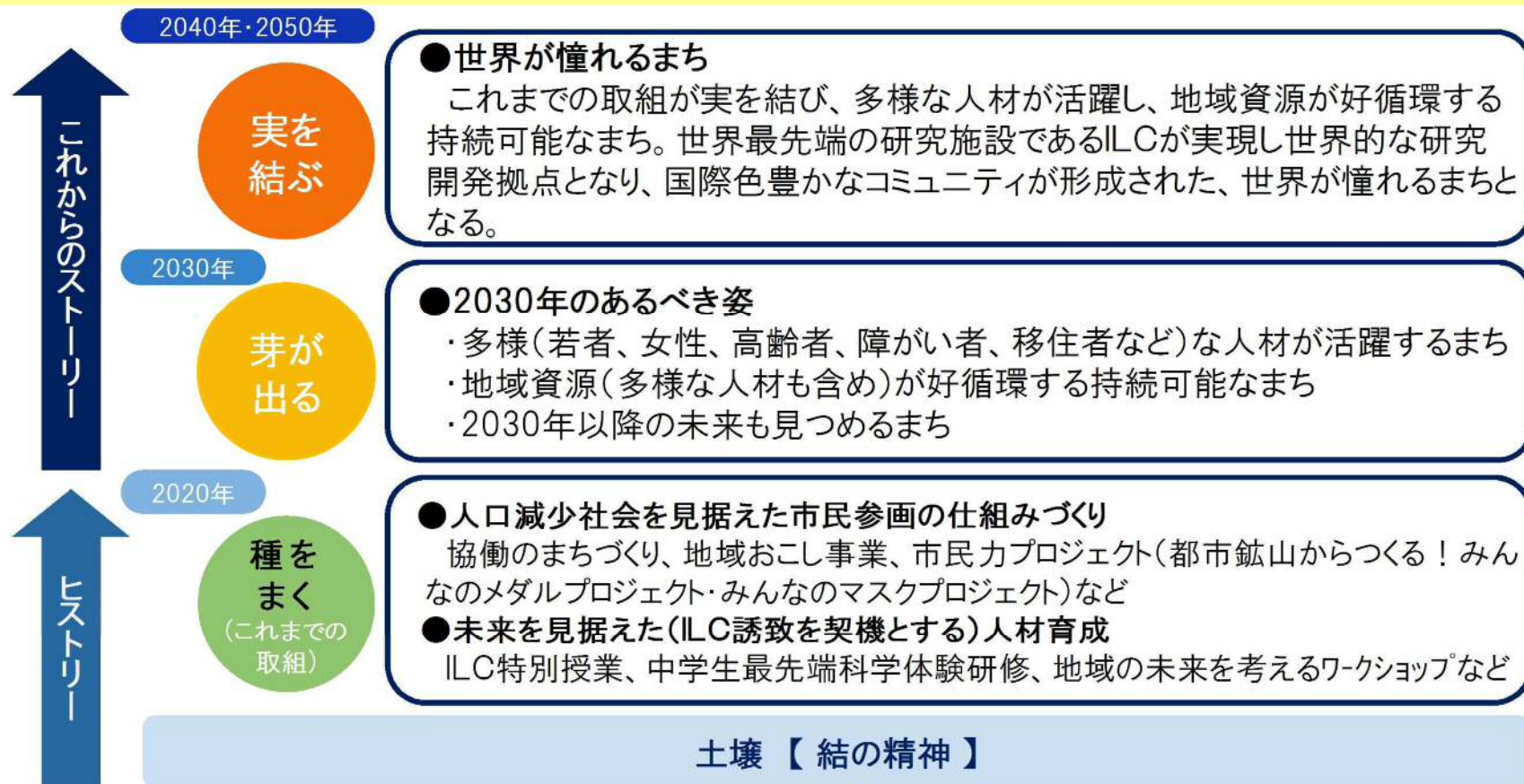




未来を見つめ、世界が憧れるまち いちのせき

～ I chinoseki L oves C hallenges ～

- 1 多様な人材が活躍するまち ～ I L Collaboration 共創する ～
- 2 地域資源が好循環する持続可能なまち ～ I L Circular economies 経済の好循環へ ～
- 3 2030年のその先の未来も見つめるまち ～ I L Committing 未来への約束 ～





自治体SDGsモデル事業①

多様な主体との協働による、
地域資源を活用した持続可能な**稼ぐ**地域づくり

経済



課題：地域に雇用を生み **稼ぐ**地域づくり

- ①地域産品の“地産地消”と地域外への販路拡大による“外商”の推進
- ②農商工の連携などによる地域資源を活用した新たな商品開発
- ③若者や女性の起業・就農支援

新たな価値を創造する
「**ばっちり稼ぐ、
がちりつながる**」
プロジェクト

社会



課題：持続可能な自立した **稼ぐ**地域づくり

- ①先導的に地域の課題解決に取り組むまちづくり団体への支援
- ②新しい日常に対応する自治会情報のオンライン提供への支援
- ③SDGsの考えを取り入れた高校生による地域課題解決

課題：地域資源の好循環による脱炭素 社会の実現と**稼ぐ**地域づくり

- ①市民による集材活動への支援と公共施設へのチップボイラー導入などによる木質資源の地域エネルギー循環
- ②森林資源の適正循環に向けた市産材の建築用材としての利用促進
- ③地域新電力会社設立による「大きな循環」、個人住宅への再エネ設備導入支援による「小さな循環」の推進

環境





■三側面の取組事例

①経済面の主な取組

地域資源を活用した 新たな商品開発

- ・農商工が連携した商品開発による地域ブランド化
- ・西洋野菜の栽培などの新たな農畜産物の産地化
- ・市内短期大学や高校と連携した農畜産物の高付加価値化



- ・地場産品の高付加価値化、生産性向上
- ・安定した雇用の創出と所得向上

若者が地域に定着するまち



地産地消レシピコンテスト

②社会面の主な取組

まちづくり団体や高校生による 地域の課題解決

- ・より主体的で自主的な取組を行う地域協働体をモデル的に選定・支援し、その成果を情報発信
- ・SDGsの理念を取り入れた高校生による地域課題解決への支援



- ・市民間でのSDGsの理念の共有
- ・地域愛を醸成し、若者の地元定着を促進

持続可能で自立した地域の確立



高校生によるSDGsワークショップ

③環境面の主な取組

木質資源による地域エネルギー 循環

- ・市民による薪やチップの原料となる間伐材の集材活動への支援
- ・家庭用薪ストーブの設置支援や公共施設へのチップボイラーの導入推進



- ・新たな雇用の創出と森林環境の保全
- ・地域エネルギーの好循環によるエネルギー代金の市外への流出減少

「2050年二酸化炭素排出実質 ゼロ宣言」の達成



市民による間伐材の集材活動

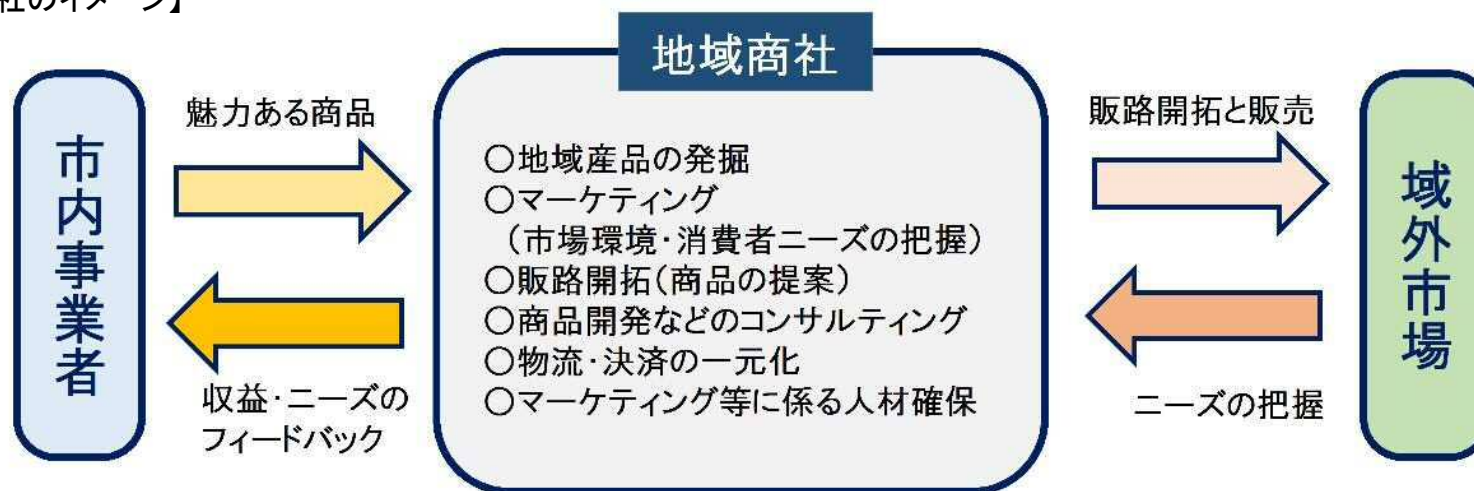


三側面をつなぐ統合的取組①

地域商社の設立 ～ばっちり稼ぐプロジェクト～

地域商社を設立し、地域の小規模事業者などに代わり、地域の農畜産物などの販路開拓や商品開発支援、マーケティング、地域のブランディング機能などを包括的に展開し、市内事業者の売上拡大につなげるとともに、地域資源に磨きをかけ、域外に一関市を売り出すことにより、地域経済の活性化を図る。

【地域商社のイメージ】



■全体最適化の概要

・域内市場が縮小していく中、地域の農畜産物などの販路の拡大や新たな商品開発などに取り組む地域商社を設立することで、地域の稼ぐ力が向上し、地域内で循環する所得や資金の流れの拡大が期待される。

・地域の稼ぐ力が向上することで、若者の就農、起業が増え、定住にも結び付き、ひいては地域コミュニティの維持につながることも期待される。

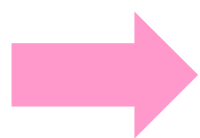
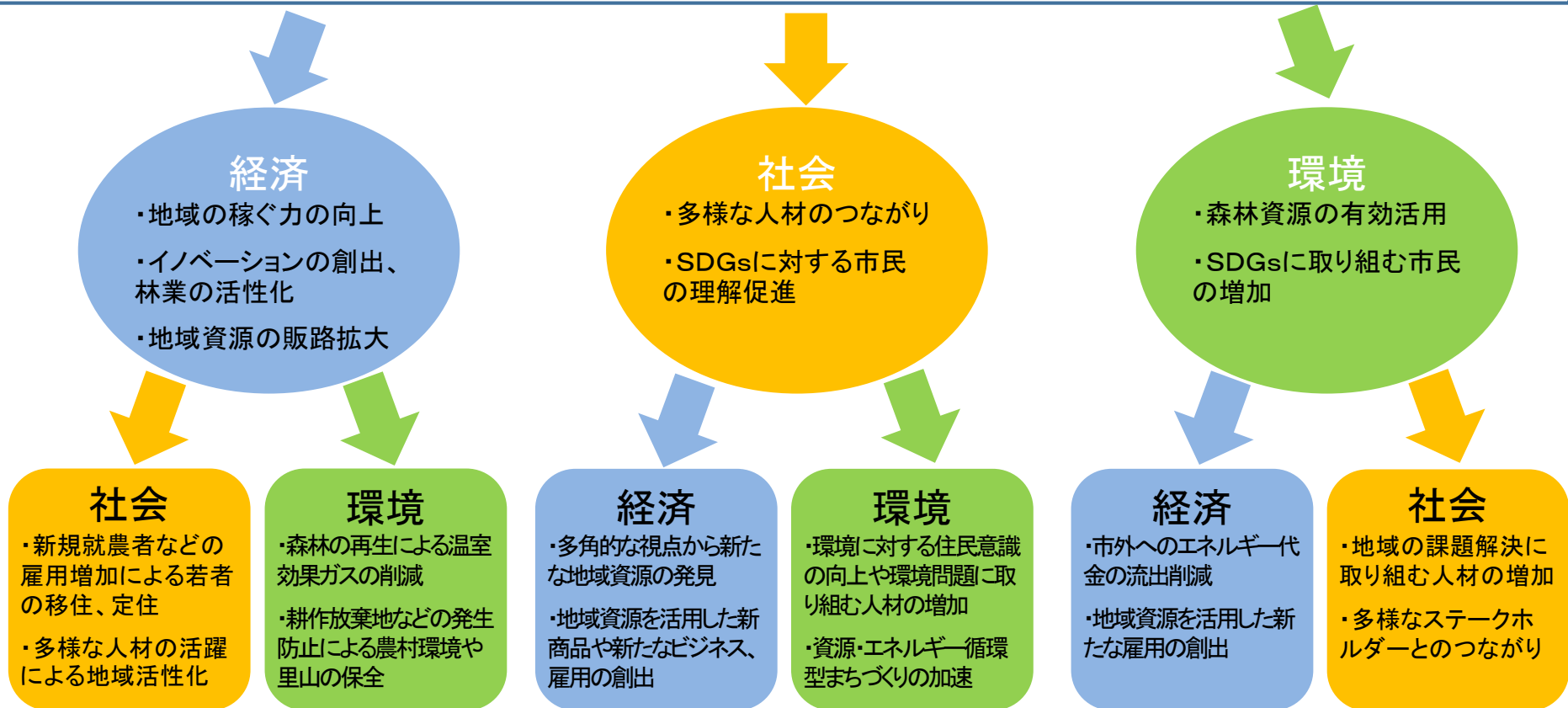
・生産の過程にあるストーリーや生産者のこだわり(想い)も新たな価値とすることで、農畜産物の販路拡大につなげ、耕作放棄地の発生防止や美しい農村環境の維持などの環境面への好影響が期待される。

・魅力ある地域の取組が発信されることで、地域愛の醸成につながることも期待される。



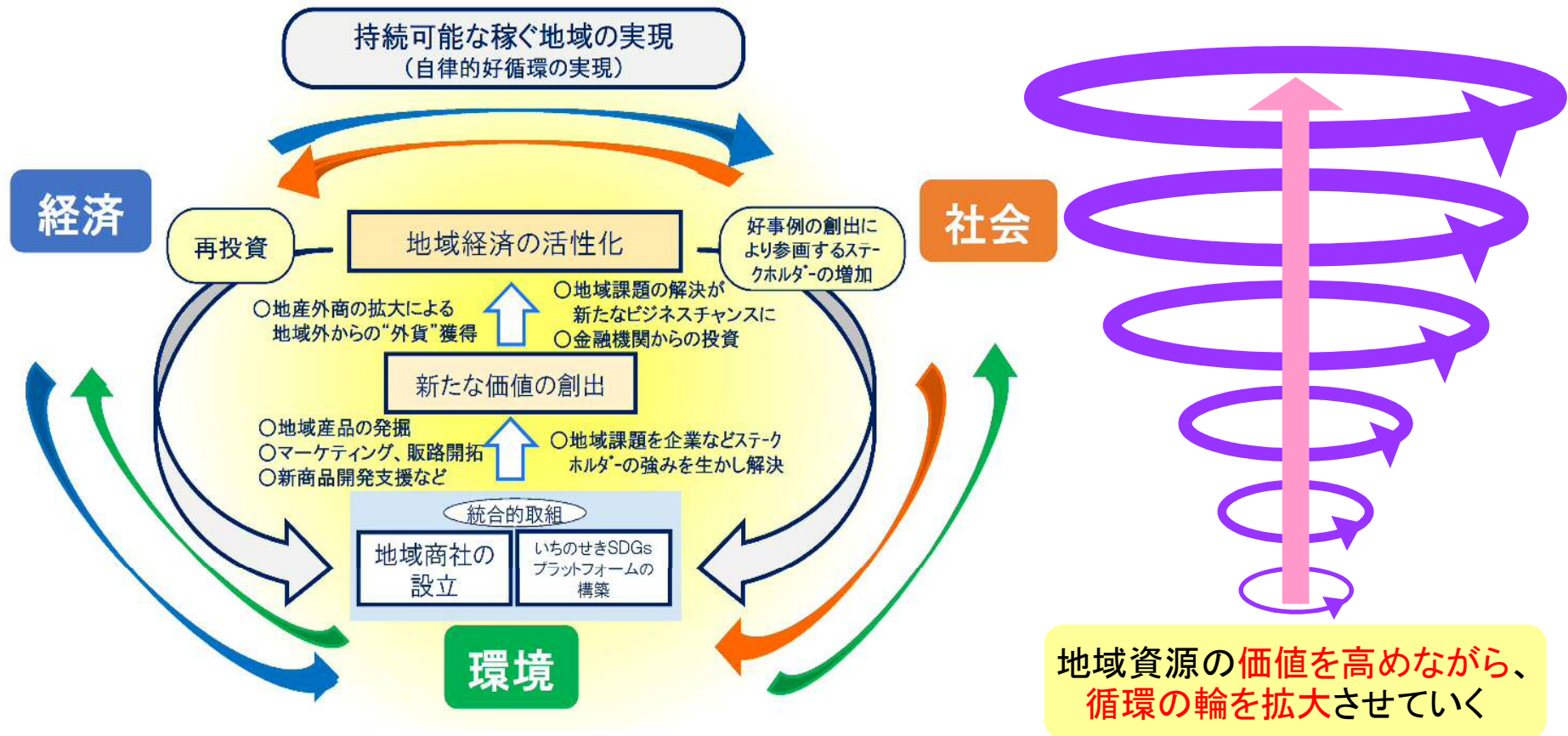
統合的取組

新たな価値を創造する「**ばっちり稼ぐ、がっちりつながる**」プロジェクト



未来を見つめ、世界が憧れるまち いちのせき

～新たな価値の創造による持続可能な地域づくり～



■ 将来的な自走に向けた取組

- ・地域商社により、“外貨”を稼ぎ、SDGsプラットフォームにより“投資”を呼び込み、それらを地域内で循環することで、自律的好循環を創出し、持続可能な稼ぐ地域をつくる。
- ・地域商社については、域外との商取引に係る専門家(外部アドバイザー)が複数年度にわたり地域商社に伴走しながら活動への助言や指導、事業の進捗管理などの支援をし、地域商社が自走できる事業モデルを構築する。
- ・SDGsプラットフォームについては、特に地域事業者が本業として地域課題を解決するなどの好事例を示すことで、参画する事業者を増やすとともに、金融機関からの投資を呼び込む。地域の課題解決の取組がビジネスチャンスになるという認識が生まれ、財源を行政のみに頼ることのない自律的好循環を創出する。